

## 2025\_0421「春霞の本白根山（写真）」日々の理科 3910号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「春霞（はるがすみ）」は、文字通り「春の霞」です。空気中（対流圏下層部）の水蒸気量が多く、また朝晩の気温差が大きいこの時期に、水蒸気が凝結（液化）して、霧粒になることで起きます。そのほかにも、「黄砂」「スギ花粉」なども春霞の原因になることがあります。

春霞の「実体」は「霧」や「靄（もや）」ですが、気象用語では数値で区別しています。ある観測点（たとえば気象庁の屋上）から遠くを見て、どの距離（直線距離）のものまでを視認できるか、という度合の数値を「視程（してい）」といいます。単位は「km」です。たとえば、都内から富士山が見えれば「視程 100km 以上」となります。その尺度で「霧」は「1km 未満の視程」、「靄（もや）」は「1km 以上の視程」という基準があります。

先日、長野原町から見た本白根山（もとしらねさん）は、春霞にボーっと浮かんで見えました。もちろん本白根山までは 10km 以上あるので、この大気の状態（天気の状態）は「靄（もや）」となります。

（2025年4月中旬／群馬県長野原町応桑下）

